



ヒバクシャの思いを世界へ

世界ヒバクシャ展のご紹介

世界ヒバクシャ展が目指すこと

ヒバクシャの思いを世界へ

広島、長崎の被爆に続いて、第二次世界大戦後、核兵器と原発、そして、その原料や燃料を供給するウラン鉱山や核の廃棄物は、世界中に無数のヒバクシャを生み出してきました。

こうした世界各地のヒバクシャを撮り続けてきた6人の日本人写真家の写真による世界ヒバクシャ展は、日本国内だけでなく、台湾、韓国などで大きな反響を呼んできました。

ヒロシマ、ナガサキを経験したにもかかわらず、日本は2011年、福島で再び被曝の悲劇を生み出し、世界に放射能を放出してしまいました。私たちは、世界のヒバクシャや核被害の真実を伝えることは日本人としての責任だと考えています。

そのために、私たちは、世界ヒバクシャ展を2020年までに世界100カ国で開催することを目指しています。



世界ヒバクシャ展を各国で役立ててもらおう方法

世界ヒバクシャ展を世界各国で開催し、その写真をフルに役立ててもらうために、私たちは以下の3つの段階を考えています。

- 1 各国で写真展を開催し、信頼できるグループとつながる。
- 2 その国でより本格的な巡回展を開催する。
- 3 その国で常設展示の場を設ける。

※世界ヒバクシャ展の写真は、写真家が被曝の危険も顧みず、世界中で撮影した貴重な写真です。ヒバクシャの姿を通して核の真実を伝えようと撮影に協力してくれた、世界のヒバクシャの思いに応えるためにも、私たちは、写真を大切に扱ってくださる方たちと長期的な信頼関係を築いていきたいと考えています。

※戦後・被爆70周年となる2015年を機に、多くの国で写真展をなるべく低いコストで開催してもらうために、新しい写真セットを作成するための検討をしています。9月をメドに提案をまとめます。

世界ヒバクシャ展を身近にしてもらう素材

各国のグループやボランティアの協力の下、以下のような素材づくりを進めていきます。

- 世界ヒバクシャ展の代表的な写真を各国語に翻訳して多言語によるWEBギャラリーを開設する。
- 各国語版世界ヒバクシャ展写真集&核被害マップを出版する。
核被害マップ（サムライマップ）は、日本語、英語版が制作済みで、各国語版を順次制作していく予定です。



折り畳んだ
サムライマップ



- 15枚程度の小規模な写真展用セットを多数作成する。

世界遺産と人類の記憶遺産のコラボ

放射能に汚染されてしまえば、世界遺産も台無しです。そこで、より多くの人々にヒバクシャの存在を知ってもらい、核について考えてもらうために、世界遺産と、人類の“記憶遺産”と言える世界ヒバクシャ展とのコラボイベントを世界各地で展開します。

コラボの方法

▽寺院などの世界文化遺産での写真展開催

▽世界文化遺産や世界自然遺産と
ヒバクシャ（写真）とのコラボ写真を
ポスターなどでのPRに活用

2013年に京都の金閣寺、銀閣寺
とのコラボを実施

こうしたコラボを各国で実施していく
予定です。



6人の写真家のプロフィールと作品

森下一徹：核廃絶を目指して力強く生きる広島、長崎の原爆被爆者の姿を50年前から撮影。1981年、ソ連邦60周年記念、国際記録芸術写真コンテスト「人間と平和」で「被爆者：富永初子」がグランプリを受賞。志を同じくする日本人写真家に呼びかけ、世界ヒバクシャ展を創始。



被爆者：藤原モトヨ



被爆者：富永初子

伊藤孝司：韓国・朝鮮人の被爆者は、広島で5万人、長崎で2万人に達した。戦後、十分な支援も得られず、苦難の生活を送った韓国・朝鮮人たちを、韓国、北朝鮮、日本で撮影。



韓国のヒロシマ



朴文淑
北朝鮮



8時15分で永遠に静止

6人の写真家のプロフィールと作品

桐生広人：ロンゲラップの核実験による被曝者など。核実験周辺の核被害を撮り、1993年には、ロシアが放射性廃棄物を日本海に投棄する現場を、グリーンピースの船上から世界に発信。



核廃棄物海洋投棄 日本海

豊崎博光：マーシャル諸島、ネバダなど核実験場の風下の人々をはじめ、ウランの採掘、原子力発電所の事故などによって核に汚染された人間や大地、動植物を撮っている。「アトミック・エイジ」が第一回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞。



故郷を捨てる マーシャル諸島



ウラン廃棄物の町 旧東ドイツ



聖地を守れ オーストラリア

6人の写真家のプロフィールと作品

本橋成一：チェルノブイリ原発事故の風下の人々の大地に根ざした暮らしを撮影。「ナージャの村」は、1999年にドイツで行われた環境映像祭の「エコメディア」部門でグランプリを受賞。「アレクセイと泉」は、2002年ベルリン映画祭で「国際シネクラブ賞」を受賞。



こんにちは



祝宴

森住 卓：セミパラチンスク、インド鉱山、イラクの劣化ウラン弾被害などを撮影。軍事問題や環境問題に取り組む中で、最大の環境破壊の元となる核被害を目撃し、核被害に苦しむ人々を撮り続けてきた。福島第一原発事故後は、被災地の人々に寄り添い、記録を続けている。



セミパラチンスク核実験場



ウラン鉱山と放射性廃棄物投棄

インド

福島 風下の村

森住卓氏は、福島第一原発事故の直後に警戒区域に入り、その後も飯館村をはじめとする周辺地域での取材を続けました。飯館村をはじめとする“風下の村”の人々は、事後直後に雨や雪とともに大量に降り注いだ放射性物質によって、暮らしの場も仕事を奪われてしまいました。



測りきれない将来への不安



遅れた行方不明者の捜索

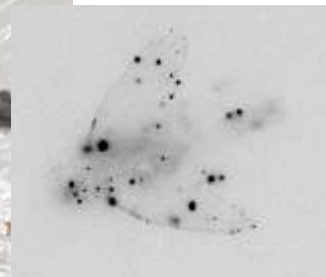


傷ついたプライド

キビタキのオートラジオグラフ



黒い部分が放射性物質



国内・世界各地で大きな反響

- ◆2002年
 - ◆2011年
 - ◆2012年
 - ◆2013年
- NPO法人世界ヒバクシャ展発足。
※約6年の中断を経て、活動再開
 - 世界ヒバクシャ展緊急フォーラム（東京）
 - プラジルで開催されたリオ+20のピープルズサミット、ラオスのアジア・ヨーロッパ・ピープルズフォーラムで写真展示
 - 全国各地で巡回写真展
 - 世界ヒバクシャ展@京都
世界遺産の金閣寺・銀閣寺とコラボ
 - ハプチョンなど韓国4都市で写真展
 - 7年に1度開催される世界教会協議会（WCC）韓国・釜山大会で写真展示
 - 台北（台湾）の「零核時代」で写真展示
若い世代を中心に2万人近くが来場
（左の写真）



世界ヒバクシャ展 来場者の感想から

- 迫力のある説得力のある写真に心動かされました。「核兵器と人類は共存できない」この声を小さな力でもひろげなければ…と強く感じました。
- このヒロシマのある国に生まれた責任として、私の目の前の子どもたちにしっかりとヒロシマのこと、ナガサキのこと、そしてヒバクシャの方々のことを伝えたいと、今日また新たに決意しました。
- 原爆症で苦しみながらノーモアと叫んでくださった方に、写真の被写体になってくださった方々に感謝します。
- 写真や資料を見て胸がくるしくなりました。今も辛い思いを抱えている人がたくさんいると思います。私たちにも出来ることはないだろうか、と考えさせられました。
- ありがとうございます。人間がつくり出したものは人間が無くさなければなりません。核も戦争もない世界を目指し歩みたいと思います。
- 台湾では「知らせてくれてありがとう」「写真展を持ってきてくれてありがとう」と、若者から多くの感謝の言葉をいただきました。

ご協力をお願い

◆ヒバクシャの思いを届けるためにご支援をお願いします

ご紹介させていただきましたように、国内外での写真展開催や写真パネルの制作などNPO法人世界ヒバクシャ展の活動には、まとまった資金をはじめとする様々なご支援が必要です。各地域での世界ヒバクシャ展の開催、ご寄付・ご協賛や写真集（制作予定）&サムライマップの購入、人的なご協力などによって、活動を支えていただきますようお願いいたします。

NPO法人世界ヒバクシャ展

〒152-0031 東京都目黒区中根1-6-7 都立大マンション603

TEL 080-3558-3369 メール hibakushaten@gmail.com

URL <http://www.no-more-hibakusha.net/>